



2



1



写真 後半37分、14番右近優太(3年)のクロスに頭で合わせた9番照井颯人(2年) ボールをゴール左隅に流し込み、先制点をもぎ取った



5



4



3



7



6

1\_遠野のスターティングメンバー。11人中、8人が遠野中出身 2\_相手ディフェンダーと競り合う11番池口遥葵(3年)。前線からプレッシャーをかけ、相手の守備を翻弄した 3\_専大北上4番は遠野中出身の菊池弥陽(3年)。元チームメイトとのマッチアップは、一進一退の攻防を繰り返した 4\_得点を決め、応援席に駆け寄るイレブン。この日1番の声援が彼らを鼓舞した 5\_声をからしながら声援を送った応援団 6\_複数人に囲まれながらも空中戦を制する6番戸羽輝希(3年)。左サイドを何度も駆け上がり、攻撃のチャンスを作った 7\_安定したゲームメイクをした10番昆野翔太(3年)。誰よりも冷静なボール運びで攻守に貢献した

第102回全国高校サッカー選手権大会岩手県大会

# 県王者、遠野イレブン 3年ぶり30回目の全国へ

伝統の青と白のユニホームをまとった遠野は決勝で専大北上と対戦。

1対0と勝利を収め、30回目の岩手県王者に輝いた。

3年ぶりに臨む冬の大舞台——。公立の雄・遠野の挑戦が始まる。

Game Result 試合結果

11月5日 いわぎんスタジアム

遠野 1 - 0 専大北上

【得点】 照井 颯人(後半37分)

ブロック。フリーキックやロングスローなど、相手の攻撃の芽を摘んだ。

大会、遠野は全試合無失点で勝利。攻守で粘り強く80分間を走り切った。全国大会は12月28日(木)に開幕し、初戦は12月31日(日)、熊本県代表の大津と対戦。3年ぶりに臨む大舞台に主将・島山哉人(3年)は、「自分たちの良さである守備で耐え、チャンスをものにしたい。一戦一戦、勝ちにこだわっていききたい」と勝利への執念を燃やす。

伝統と誇りを刻んだ青と白のユニホームが、再び全国で躍動する。

第102回全国高校サッカー選手権大会岩手県大会の決勝は11月5日(日)、いわぎんスタジアム(盛岡市)で行われた。青と白のユニホームをまとった遠野は専大北上を1対0で下し、3年ぶり30回目の全国大会出場という栄冠をつかんだ。

勝負を決めた一瞬、会場は静まり返った。0対0で迎えた終盤。延長戦もちらつき始めた後半37分、ゲームは動いた。14番右近優太(3年)が蹴った右サイドからのセンタリングはゴール中央へ。9番照井颯人(2年)がヘディングで流し込み、ゴールネットを揺らした。歓声よりも早く叫んだ「よっしゃー!!」。イレブンが雄たけびを上げた瞬間だった。遠野が前後半合わせて放ったシュートは13本。相手の固い守備を崩したゴールは、全国へと導く決勝点となった。

試合は序盤から遠野が攻守で主導権を握る。今試合キヤプテンマークを巻いた10番昆野翔太(3年)と5番菊池遥太(同)を起点にパスサッカーを展開。中盤からプレスをかけ、安定した試合運びを見せた。守備陣もゴールキーパー浅沼英志(同)を中心に堅実に